

2021年度（2022年3月期） 第2四半期決算説明会 連結

株式会社フコク(東証第一部:5185)
2021年11月25日

ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます



Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

おはようございます。

本日はお忙しい中、
株式会社フコク2021年度上期決算説明会をご視聴いただきまして、
誠に有難うございます。

本日の説明をさせていただきます企画本部担当役員の大橋でございます。

最初に、フコク製品をご愛顧いただいております全てのお客様、株主の皆様、
私達の企業活動を支えていただいている全ての関係者の皆様に深く御礼申し
上げます。

説明の順番ですが、
資料に基づき説明した後、皆様からのご質問があればお答え申し上げます。
ご質問はチャットにて受け付けますので、ご質問のある方は画面右側より入力をお
願いします。

それでは、始めさせていただきます。

Agenda

1. 決算のポイント
2. 2022年3月期第2四半期実績
3. 2022年3月期通期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. プライム市場上場に向けて

ご覧の通り、決算のポイントを簡単にご説明した後に、2021年度上期実績、通期業績予想、セグメント・地域別状況、株主還元方針、プライム市場上場に向けての取組み状況について説明させていただきます。

1. 決算のポイント

1. 決算のポイント

2022年3月期第2四半期実績

当期は、終盤に差し掛かり半導体不足などに起因する減産や原材料費・物流費増の影響が顕著化したものの、新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せたことによる受注の順調な回復と合理化努力などにより、増収・増益となりました。

2022年3月期通期予想

半導体不足長期化に伴う自動車生産減や、原材料・物流費の高騰など外部環境が不透明な中、あらゆる採算改善努力を積み重ね、売上高は730億円、営業利益は37億円の公表値を据え置きます。引き続き体質改善に取り組み、損益分岐点の引き下げを図ります。

配当

中間配当は、当初計画の20円から業績改善に伴う配当予想修正を2回行い、29円に増配しました。期末配当予想は、外部環境の改善の兆しが見えない中でも改善努力を継続し、当初計画20円を据え置きとし、通期では前年比27円増の49円を計画しています。

はじめに決算のポイントですが、2021年度上期は、終盤特に8月から9月において、半導体不足による減産や原材料・物流費高騰の影響が顕著化しましたが、全体としては新型コロナウイルス感染症の落ち着きを見せたことによる受注の順調な回復や合理化努力により、増収・増益となりました。

これを受けた通期予想となりますが、半導体不足長期化に伴う自動車生産減、原材料・物流費の高騰などの外部環境が不透明な状況にはありますが、あらゆる採算改善努力を積み重ね、売上高730億円、営業利益37億円という従来公表値は据え置きと致します。

引き続き体質改善に取り組み、損益分岐点の引き下げを図ります。

上期中間配当に関しましては、当初計画の20円から業績改善に伴う業績予想修正を2回行い、9円増配の29円と致しました。

期末配当予想は、外部環境が不透明な状況ではありますが当初計画20円を据え置きとし、通期では前年比27円増配の49円を計画しております。

2. 2022年3月期第2四半期実績

2. 2022年3月期第2四半期実績

業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2021年3月期 第2四半期実績	2022年3月期		
		第2四半期実績	前年増減額	前年増減率
売上高	28,408	※ 36,650	8,241	29.0%
営業利益 <small>（売上高対営業利益率）</small>	△899 <small>（-）</small>	1,820 <small>（5.0%）</small>	2,720 <small>（-）</small>	-
経常利益 <small>（売上高対経常利益率）</small>	△525 <small>（-）</small>	2,125 <small>（5.8%）</small>	2,650 <small>（-）</small>	-
当期純利益 <small>（売上高対当期純利益率）</small>	△451 <small>（-）</small>	1,611 <small>（4.4%）</small>	2,062 <small>（-）</small>	-

※ 第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。

第1四半期の受注好調により増収増益

2022年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証第一部5185) 2021年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

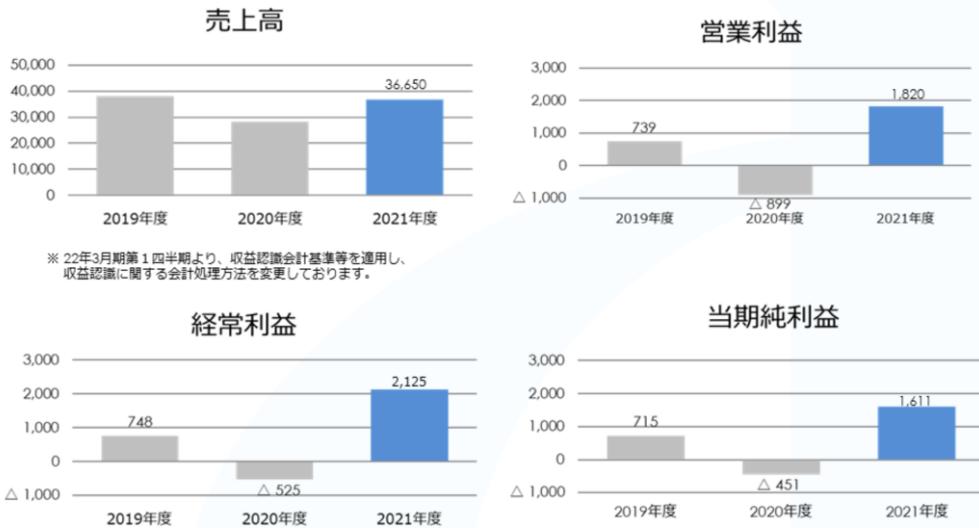
2021年度上期の実績は、
売上高は前年同期比29%増の366億5千万円となりました。

売上回復と採算改善に努めた結果、
営業利益、経常利益、当期純利益ともコロナで売上が落ちた前年の赤字から大きく改善、黒字化しております。

2. 2022年3月期第2四半期実績

経営実績推移（連結・半期）

（単位：百万円）



※ 22年3月期第1四半期より、収益認識会計基準等を採用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。

このグラフは、過去3年間の上期の実績を示したものです。

ご覧の通りコロナの影響で赤字だった前年からの回復だけでなく、2019年度上期と比べてもほぼ同じ売上規模でより多くの利益が出せる体質になっております。

2. 2021年3月期第2四半期実績

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2022年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証第一部5185) 2021年11月 Copyright© Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、
対前年比 連結営業利益増減を要因別に示したものです。

プラス要因としては、
売上高が82億円増加したことによる操業度益が約35億円、
これに体質改善、合理化、償却費減、在庫増、等々で16億円、

マイナス要因としては、
原材料・運賃が4億円、売上増に起因する人件費増10億円弱、その他経費増
8億円となっております。

2020年度より、損益分岐点比率70%を目指して全社一丸となり取組んで
来ましたが、現時点では原材料・運賃高騰で足踏みを余儀なくされている状況に
あります。

2. 2021年9月期実績概要

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

(単位：百万円)

	2021年3月期 実績	2021年9月期 実績	前年増減額
現金及び預金	8,992	9,743	750
受取債権	18,713	17,426	△ 1,286
棚卸資産	7,251	8,489	1,238
その他流動資産	1,261	1,308	47
流動資産計	36,218	36,968	749
有形固定資産	25,184	25,117	△ 66
その他固定資産	2,414	2,500	85
固定資産計	27,599	27,617	18
資産計	63,817	64,586	768
借入金	12,089	10,481	△ 1,608
支払債務	9,441	9,947	505
その他流動固定負債	9,965	9,711	△ 254
負債計	31,496	30,139	△ 1,356
株主資本計	30,348	31,608	1,259
非支配持分	2,235	2,229	△ 5
その他	△ 262	608	871
純資産計	32,321	34,446	2,125
負債・純資産計	63,817	64,586	768

- 収益改善で株主資本、現金及び預金が増加、一方で借入金は返済により減少

	2020年9月期 実績	2021年9月期 実績
税前利益	△ 542	2,134
減価償却費	2,111	2,066
売上債権の増(△)減(+)	4,555	1,767
たな卸資産の増(△)減(+)	△ 397	△ 1,027
仕入債務の増(+)	△ 2,760	△ 58
その他	△ 983	△ 919
営業活動によるC F	1,982	3,962
有形固定資産の取得	△ 2,241	△ 1,301
その他	71	△ 31
投資活動によるC F	△ 2,170	△ 1,332
借入れによる収入	2,451	49
借入金の返済による支出	△ 2,144	△ 1,784
その他	△ 263	△ 464
財務活動によるC F	42	△ 2,200
フリー・キャッシュ・フロー	△ 187	2,629

- 改善活動に取り組んだ結果、フリー・キャッシュ・フローが改善
- 収益改善で借入金の返済が進む

財務体質の状況をバランスシートとキャッシュフローで見ると、ご覧の通りとなります。

バランスシートでは、収益力改善で株主資本、現金及び預金が増加、借入金は返済により減少しております。

キャッシュフローでは、収益力の回復により営業キャッシュフローは増加、フリーキャッシュフローは大幅改善しております。

3. 2022年3月期通期業績予想

続きまして2021年通期の業績予想についてご説明いたします。

3. 2022年3月期通期業績予想

業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2021年3月期 実績	2022年3月期		
		予想	前年増減額	前年増減率
売上高	63,214	※ 73,000	+9,786	+15.5%
営業利益 (売上高対営業利益率)	693 (1.1%)	3,720 (5.0%)	+3,027 (+3.9pp)	+436.8%
経常利益 (売上高対経常利益率)	1,435 (2.3%)	3,900 (5.3%)	+2,465 (+3.0pp)	+171.8%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,254 (2.0%)	2,450 (3.3%)	+1,196 (+1.3pp)	+95.4%

※ 第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。

※ pp = パーセンテージポイント

売上回復に加え、合理化・体質改善の効果により増益を見込む

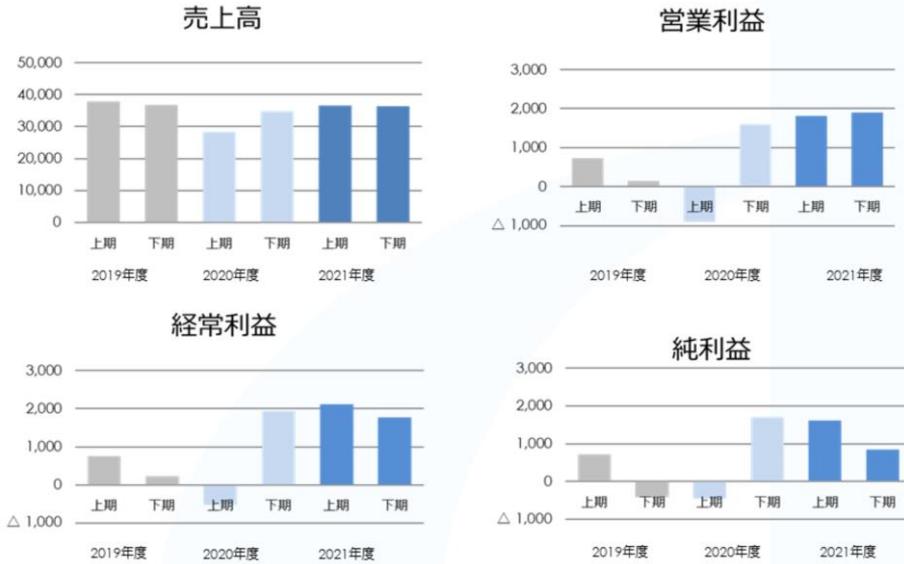
2022年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証第一部5185) 2021年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

冒頭申し上げましたが、半導体不足による自動車生産減、原材料・運賃高騰によるマイナス要因が現時点で予想されていますが、通期予想は既に公表している数字を維持し、売上高は730億円、営業利益37億円、経常利益は39億円、当期利益は24億5千万円を目指します。

3. 2022年3月期業績予想

経営予想推移（連結）

（単位：百万円）



2022年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証第一部5185) 2021年11月 Copyright© Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

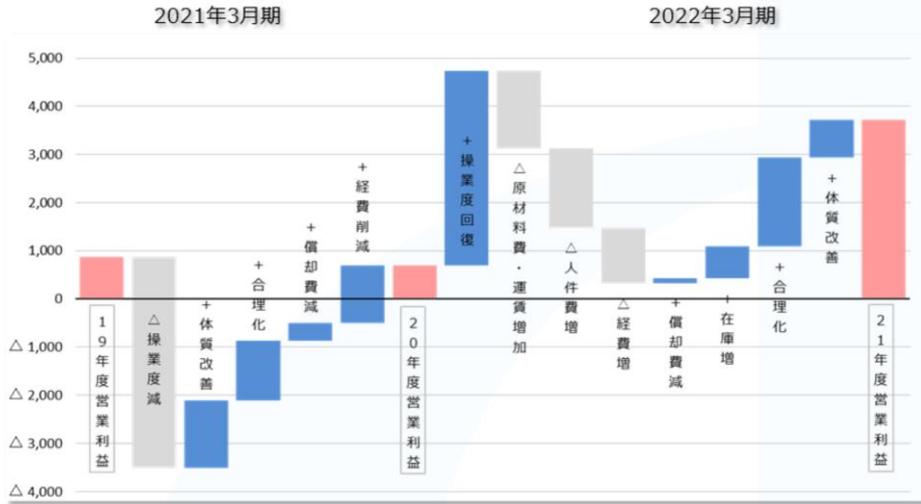
過去3年間の業績を半期毎の推移で表してみました。

ご覧いただきました通り、
今年度下期は足元の半導体不足による売上減、原材料費の高騰、運賃上昇などによる押し下げ要因を考慮したものとなっています。

3. 2022年3月期業績予想

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2022年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証第一部5185) 2021年11月 Copyright© Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、
対前年比通期連結営業利益増減を2020年度から要因別に示してみました。

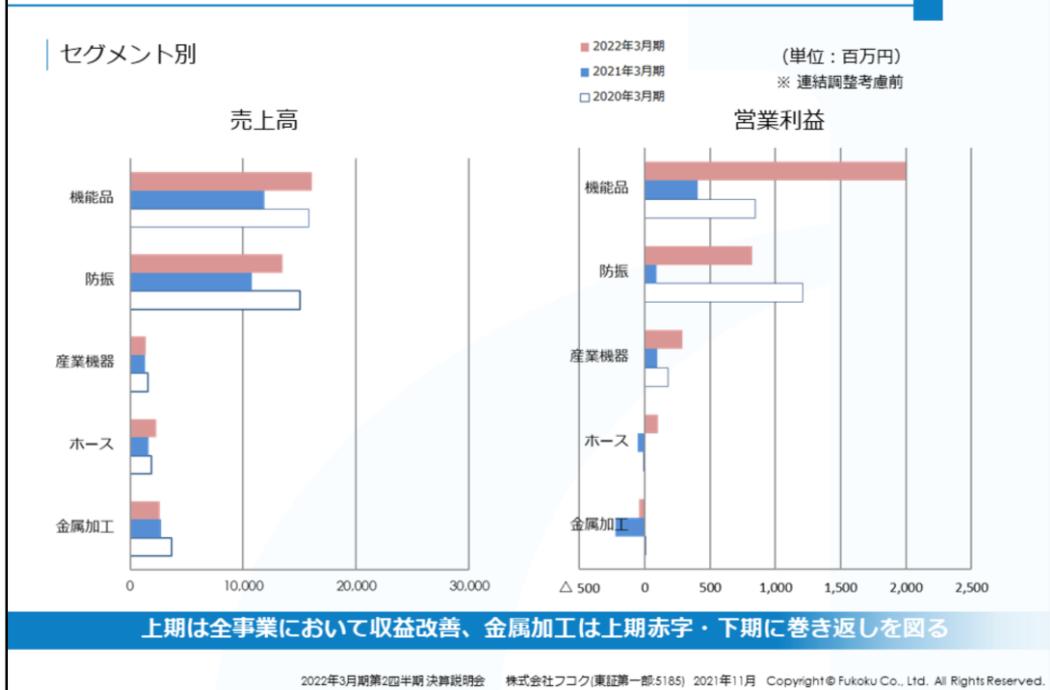
左側半分は2020年度の実績、右半分が2021年度の予想となります。
売上が約98億円増加することによる操業度益約40億円を見込みます。
しかしながら、体質改善・合理化等のプラス要因を原材料費や運賃高騰、
経費増のマイナスで相殺される形になっております。

これら逆風をむしろ収益体質強化のチャンスと前向きにとらえて、
従来より収益力拡大のために計画してきた生産性向上、合理化のスピードアップ
を前倒ししながら、全社一丸で取組んでまいります。

4. セグメント別・地域別の状況

次は、セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。

4. セグメント別・地域別の状況 第2四半期



まず、セグメント別の状況です。

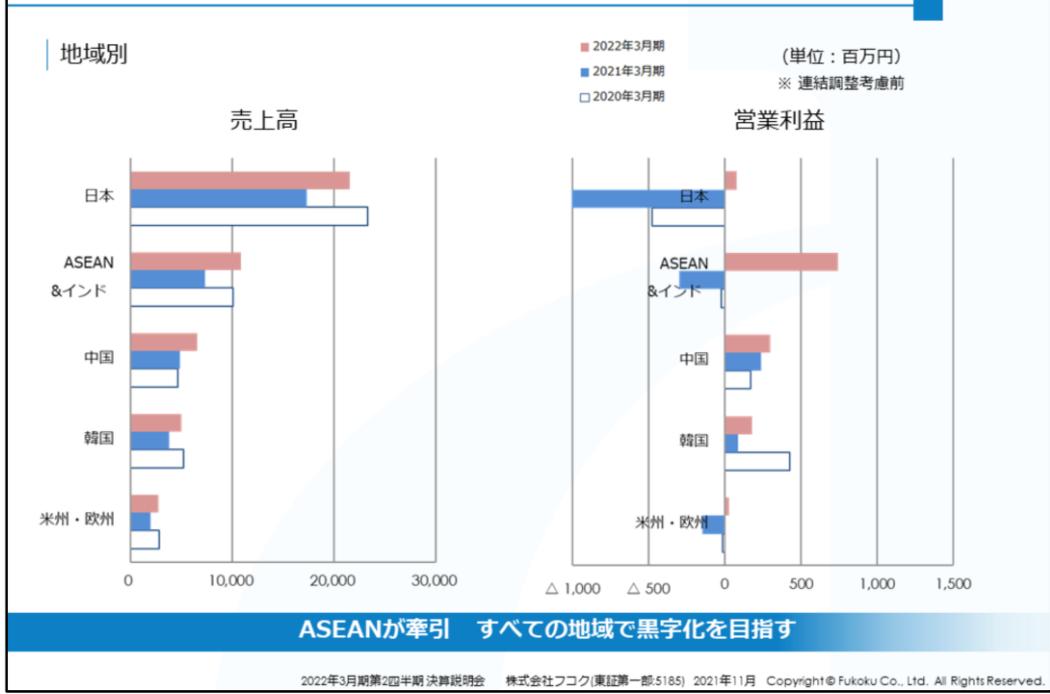
グラフは、2019年度から2021年度までの推移が分かるように表してみました。上から順に、機能品・防振・産業機器・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。

ご覧の通り、

2021年度上期は、全てのセグメントで営業利益が改善、ホース事業が初めて黒字化を達成しました。

金属加工はまだ赤字ながら、黒字化に向けてグループを挙げて全力で取り組んでおります。

4. セグメント別・地域別の状況 第2四半期



次は、地域別の状況です。

セグメント状況と同様に年度ごとの推移で示しています。

ご覧の通り、
2021年度上期実績では全地域で黒字を達成しております。

5. 株主還元

次に、株主還元についてご説明いたします。

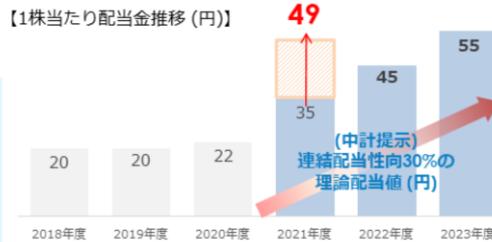
5. 株主還元

配当政策の基本方針

- **連結配当性向30%**を目安に安定配当を継続。
(1株当たり年間20円を下限※) ※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

1株当たり配当金について (2022年3月期)

- **第2四半期末(実績)**
 - ・ 当初計画20円に対し、業績改善に伴う配当予想修正を2回行い**29円**にて着地(20円 ⇒ 25円 ⇒ 29円)
- **期末(予想)**
 - ・ 先行き懸念(顧客先であるカーメーカー各社の半導体不足による生産調整、原材料や輸送費高騰等)があるものの、全社一丸となった利益確保に努めるため、当初計画20円を据え置き。通期では前年差27円増の**49円**を計画。



2022年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証第一部5185) 2021年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、既に中期経営計画にて発表しておりますが、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針と考えております。

これに基づく2021年度第上期の中間配当は、当初計画20円から9円増配の29円と致しました。

2021年下期の期末配当は、現在の半導体不足、原材料・運賃高騰等の懸念 事項も考慮し20円、通期では49円を計画しております。

6. プライム市場上場に向けて

最後に、プライム市場上場に向けての取組みを説明させていただきます。

6. プライム市場上場に向けて

当社の適合状況と取組み方針

- 当社の適合状況 (2021年7月9日/東証通知)
 - ・「流通株式時価総額」が約93億円、上場維持基準の100億円に僅かに届かず
- 東証通知を受けた当社の取組み方針開示 (2021年7月14日)
 - ・ **プライム市場への上場 (上場維持基準の達成)を早期に目指すことを宣言済**
 - 2021年2月に公表した中期経営計画の確実な達成
 - 連結配当性向30%を目安とした株主還元の継続的实施
 - 当社の成長戦略を始めとした様々な情報を積極開示

取組み方針に基づく進捗

- 中期経営計画 (深化と新化)
 - ・ 中国エリア本部設立。中国エリアにおける迅速な事業運営を推進
 - ・ 上海富国有限公司にテクニカルセンター設置。中国国内顧客との共同開発を拡大
 - ・ 大手カーメーカーより電動化対応製品を受注
- 積極的なIR活動推進
 - ・ 情報開示の充実
 - 企業ホームページ全面刷新 (2021年4月:日本語サイト/同年6月:英語サイト)
 - 英文開示の開始 (決算短信、株主総会招集通知、中期経営計画)
 - ・ 機関投資家との対話強化
 - 決算説明会の継続開催 (オンデマンド型配信含む)
 - 1 on 1ミーティング等を通じたコミュニケーション強化

「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」は本年12月迄に開示

既に公表しておりますが、
2021年7月の東証よりの通知で、当社は流通株式時価総額が基準の100億円に対して約93億円とわずかに足りませんでした。

これに対しプライム市場上場に向けて、現在以下の3つの対策を行っております。

1. 2021年2月に公表した中期計画の確実な達成
2. 連結配当性向30%を目安とした株主還元の継続的实施
3. 当社の取組みの積極的な情報開示

を強化しております。

現在までの具体的進捗状況ですが、
中期経営計画の具体的な数字定量目標に関しましては、
既にご報告申し上げた如く順調に推移しております。

ちなみに現在の株価で水準改めて試算しますと、
流通株式時価総額100億円の基準はクリアしております。

6. プライム市場上場に向けて

当社の適合状況と取組み方針

- 当社の適合状況 (2021年7月9日/東証通知)
 - ・「流通株式時価総額」が約93億円、上場維持基準の100億円の僅かに届かず
- 東証通知を受けた当社の取組み方針開示 (2021年7月14日)
 - ・ **プライム市場への上場 (上場維持基準の達成)を早期に目指すことを宣言済**
 - 2021年2月に公表した中期経営計画の確実な達成
 - 連結配当性向30%を目安とした株主還元の継続的实施
 - 当社の成長戦略を始めとした様々な情報を積極開示

取組み方針に基づく進捗

- 中期経営計画 (深化と新化)
 - ・ 中国エリア本部設立。中国エリアにおける迅速な事業運営を推進
 - ・ 上海富国有限公司にテクニカルセンター設置。中国国内顧客との共同開発を拡大
 - ・ 大手カーメーカーより電動化対応製品を受注
- 積極的なIR活動推進
 - ・ 情報開示の充実
 - 企業ホームページ全面刷新 (2021年4月:日本語サイト/同年6月:英語サイト)
 - 英文開示の開始 (決算短信、株主総会招集通知、中期経営計画)
 - ・ 機関投資家との対話強化
 - 決算説明会の継続開催 (オンデマンド型配信含む)
 - 1 on 1ミーティング等を通じたコミュニケーション強化

「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」は本年12月迄に開示

定性的取組みとしては、

- ・ アセアンに続いて中国にエリア本部を設立、エリアの迅速な事業運営を推進。
- ・ 上海フコク内にテクニカルセンターを設置、中国のお客様との共同開発を予定。
- ・ EVマーケット対応として、大手自動車メーカーより電動化対応製品を受注。

IR活動に関しましては本資料にあるような取組みを始めておりますが、これまでIR活動については財務情報中心の公表のみで、積極的に行ってこなかった点について、反省をしております。

2020年7月には、経済産業省から「グローバルニッチトップ企業100選」に選定され、ゴム製品・自動車部品業界の中で、非常に競争力を持ったユニークな存在であることを自負しております。

活動状況と魅力を積極的にマーケットに発信していくことが大事だと考えています。今後、このような非財務情報についてもホームページ等を通じて、発信を更に強化していきます。

尚、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書は本年12月までに開示を予定しております。

以上で、私からの説明は終わります。